

2025 年度事業計画

演劇の普及と演劇に関する助成によって、文化の向上に寄与することを目的として活動する本協会の助成事業（演劇関係者への助成金交付、海外研修、脚本家育成への助成）、普及事業（半額観劇会、演劇に関する講座開催）、調査事業等、公益諸事業を行っています。2025 年度はこれら事業の公益性を図っていくこととし、全ての事業に安全性を確認しながら取り組むことといたします。

I 助成事業

1. 演劇関係者への助成金交付

この事業は演劇制作・興行の発展に寄与されたと認められた団体または個人に交付するもので、内外からの推薦を募り、これからの活躍に期待しての奨励賞、これまでの活躍を讃える功労賞の視点に立ち、外部委員を含めた選考委員会が審査、選考し候補者を決定。常務理事に報告、審議の上、会長に答申、承認いたします。

2025 年度は 6 名の交付を予定。

(助成金は 1 件 50 万円)

2. 海外研修への助成

1989 年に発足した海外研修は、研修者が欧米の演劇と文化に直接肌に触れることで大きな実績となると考えております。海外の演劇、特にミュージカル公演は盛況であり、本場のニューヨーク、ロンドンの舞台を研究したいという強い要望が多く寄せられています。2020 年度から 2022 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、本事業の執行を取りやめていましたが、2023 年度から事業を再開し 2023 年度の参加者は 10 名、2024 年度も 10 名の参加となり、2024 年度末の参加者総数は 571 名となります。

2025 年度におきましても国外、国内の安全性を確認した上で海外研修助成に関する規則に則り事業を執り行います。

2025 年度は 12 名の助成を予定。

(助成金は 1 名 35 万円+研修先での観劇代金上限 10 万円)

3. 脚本家育成への助成（脚本募集及び脚本家養成講座）

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要と考えられます。

脚本募集につきましては、2025 年度は 2023 年度に「第九回脚本募集」を行いました分を 2024 年に審査し入選作品を決定いたしました。その表彰式を 2025 年 6 月の定時理事会で行う予定です。

応募状況ですが 総数 65 本 内訳は歌舞伎部門 25 本、ミュージカル部門 8 本、現代劇部門 23 本、時代劇部門 9 本となります。

入選作品

最優秀作品 該当なし

優秀作品

現代劇部門 松澤 理 『カッコウたちの夏-東京俘虜収容所北山分所』

佳作

歌舞伎部門 宮本 知佳 『お雪政八あべこべ噺』

〃 宮本 知佳 『女鼠捕物帳』

ミュージカル部門 阿原乃里子 『草太郎の恋-お伽草子より-』

時代劇部門 松島美穂子 『大刀洗川の水は清く』

次に 2013 年度より「初級コース」「中級コース」「マスターコース」の 3 コースでスタートしております「脚本家養成講座」ですが、2025 年度も受講生の安全を確認しながら引き続き開講いたします。

II 普及事業

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、独立行政法人日本芸術文化振興会・国立文楽劇場、大阪府、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とが共催している半額観劇会は、低廉な価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。2025 年度も加盟劇場と各自治体の関係各署と確認を取りながら安全性を確認した上で事業を執り行って参ります。

また、学生のための演劇教室も 2025 年度も関係者と連絡を密に取りながら事業を取り組み、若年層を中心とした演劇人口の拡大に努めます。

2025 年度は 2 件を予定。

III 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るために会報を年 2 回（7 月・12 月）発行し、会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、マスコミ関係に配布いたします。

IV 調査事業

わが国の演劇関係の参考資料として、海外の演劇興行の実情を調査、研究し報告書を作成いたします。

「ライブ・エンターテインメント市場調査報告書」の作成協力。

以 上